

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表 1	団体名	まいばらフリーペーパー
	事業名	米原のタウン情報誌「まいスキッ！」発行
委員		：毎回、楽しみにしている。この事業の良い点は、民から情報発信を一緒にしていきたいという提案であるということ。他の市町でも同じものを作れないかという動きがあると聞くと、行政提案では良さが薄れる。
団体		：その通りであり、この事業の始まりも市民の中で話が盛り上がった上でエントリーしたものである。
委員		：取材も両者で行ったというのも協働の理念に合っているし、今後も協働の理念を生かしながら情報発信をしていく中で、これからの展望についても非常に良い視点を持たれている。市民と一緒に盛り上げていきたいというところ。具体的なイメージはどのようなものか。
団体		：これまで発刊してきた中で、取材などで色々な方とお近づきになれた。そういう方とともに、まいスキッ！の誌面以外でも何かできないかと思っている。また、広告主に食品を取り扱う店が多いため、イベント時にB級グルメではないが、紹介した店や品を集めたことができないかと考えている。せっかく知り合えた方々と一緒に盛り上げていきたい。
委員		：少し大げさかもしれないが、まさしくまちおこしに繋がっていく情報誌である。
団体		：私の中でまちおこしというと結構ハードルが高いものを感じてしまう。ありがたい言葉だがプレッシャーでもある。冊子で全体をカバー（周知）して各団体がそれを利用してもらうというイメージの方が良いかと思われる。
委員		：一般的にフリーペーパーのイメージは商業ベースの宣伝広告のものであるが、まいスキッ！はソーシャルなものであり、このソーシャルの部分を無くすことなく頑張っていたきたい。
委員		：視察などの受け入れはあったか。最近、大学院生がまちおこしの参考として先進地に視察に行こうとしたら、視察料として1人1万円と言われた。この取り組みは全国的な先進事例になると思われるため、ノウハウを含めて教えてほしいという話があれば、是非有料で受けていただきたい。
委員		：3年間という短い期間でよくここまでのものを構築された。期待している。米原市は過疎化と高齢化という課題を抱えている。これは全国的な問題であるが、このまいスキッ！を手にとられた方が、米原市っていいな、面白そうだなと思ってもらえるイメージを全国に広めてほしい。そうなることで米原市に住んでみたい、一度行ってみたいとなれば過疎化や高齢化の課題解決策に繋がるのではないかと。行政もこれで終わりとするのではなく、情報を共有し発信することで課題解決に繋がることから、予算を減らすことなく推進してほしい。二倍にするぐらいでも良い。情報の大切さを認識してほしい。
委員		：まいスキッ！は全戸配布されているところが強みである。地元の小さな店舗などでも掲載いただけ、信用も得られる。今後は広告収入を増加させるというのも必要であるが、市内の中小企業も視野に入れていただきたい。企業が賑わえば、地

域活性に繋がる。

委員：至る所でまいスキッ！を見るようになり、非常に素晴らしいと実感している。広報誌はどの市町にもあるが、民間と行政の協働の取組としての冊子は他にない。内容も良くできており、誇りに思っって拝見している。以前、いつかは取り上げるテーマに行き詰るのではという話があったが、幅広い目で米原市を盛り上げていたきたいので、同じテーマでも角度や内容を変えて取り上げていただければと思う。

団体：今後、どのような内容を取り上げて欲しいか、市民特班員のようなことも考えている。

委員：今年発刊の最新号には表紙から協働事業提案制度の文字が消えているが、3年が過ぎ、協働事業提案制度からは外れたが、事業としては協働で行われているので、表紙に記載しても良いのではないか。

団体：別に問題ないが、新たに広報秘書課と調整したときにどのような表現とするか、良い表現が思い浮かばなかった。編集後記では掲載している。

委員：市との関わりが表紙にあった方が良いのではないか。

団体：表現方法について考える。

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	ルッチまちづくりネット
2	事業名	米原まちづくりネットワークの構築
<p>委員：人と人とを繋ぐネットワークの活性化を民間でされているのは素晴らしいことである。ただ、知りたいのは『のまどカフェ』などで貴重な話し合いをされていると思うが、その内容は発信されているのか。</p> <p>団体：主にフェイスブックでの発信をしている。ただ、フェイスブックでは見にくいいためブログなど他の方法も考える。</p> <p>委員：まいばらフリーペーパーとの連携も考えられる。</p> <p>委員：この事業の目的として、つなぎ役や交流の場づくりについては進んでいると感じるが、まちづくりにかかわりたいと思われる方の窓口づくりはどのような進み具合か。</p> <p>団体：色々な所に出向いてカフェを開催する『のまどカフェ』などに来ていただいたら、活動団体と繋ぐことができるようにしている。もう少し浸透できるように、まちづくりへの関わりの敷居をもっと低くできないかというところが課題である。</p> <p>委員：定期的実施されている場所に行くというのも1つの手法だが、急に思い立ったときに相談できる場所などはどのように考えているか。行政との協働の中で、現在どのような状況にあるか。</p> <p>担当課：現在進めているのが、まちづくりに関わりたいが、どこに相談して良いのかわからない、どんなことをすればまちづくりに繋がるのかわからないという方に対してのまちづくりの総合窓口ができないかと考えており、総合窓口を設置するに当たり、今年度事業においてどのような機能が必要であるかを検討することとしている。</p> <p>委員：是非お願いしたい。</p> <p>委員：『のまどカフェ』について、熱心に何回も開催されている。これは素晴らしいことである。地道な活動であり、他への刺激になるのではないか。ただ、時期などの影響からか、参加者の人数に偏りがある。この辺り、どのように考えているか。</p> <p>団体：昨年度は行政のイベントとのコラボレーションを何度か行ったが、そういった行政からの告知がしっかりとされていると参加も増える。特定の団体の所で開催するとなると、興味のある方は限られてくるという印象である。逆に、興味を持っていただいた方から今度はこんなところに行きたいという情報があり、そういったサイクルを作り出せればと思っている。</p> <p>委員：今後とも、至る所で実施いただきたい。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	伊吹の天窓実行委員会
3	事業名	伊吹の天窓
<p>委員：里おこしの思いを形にするというコンセプトで根付きつつある。昨年はアクシデントがあり残念だったが、結果を見てしっかりと軌道修正を行い、新しい展望を見据えておられるというところが、熱い思いを持っておられる民と冷静な行政とが協働したからこそその効果かと感じられる。協働事業の意味があったのではないかと感じられる。台風というアクシデントでイベント開催を中止されたが実際のところ赤字であったのではないかと心配している。</p> <p>団体：保険加入していたため、赤字は補填することができ、自己負担はなかった。心配いただき恐縮である。</p> <p>委員：一昨年イベントに参加してとても素晴らしかったため、昨年も期待していた。台風ということでもしかたないとしても残念であった。中止で終了ということなく、その人材やノウハウを他のことに生かせないかと思っていた。屋外で実施する事業であるため、天候に左右されるのは当然である。これまで奥伊吹と言うとスキーシーズンというイメージであったが、夏にも奥伊吹の魅力をアピールする素晴らしいイベントであった。是非ともノウハウを他の地域でも生かしていただきたいと大いに期待している。</p> <p>団体：我々もできることならば翌日にでも開催したいという思いであったが、多くの方に関わってもらい開催しているため、アーティスト、照明、ボランティアなど日程を調整する必要があるため、そういうわけにはいかなかった。しかし、その時に関わっていただいたボランティアや出演いただくとしていたアーティストとともに、秋に米原駅前ではぼぼフェスというイベントにも取り組んだ。今までの経験やノウハウが役に立った。また、奥伊吹以外での開催という貴重な経験であり、課題も多く見えた。奥伊吹の地域は米原市の有効な武器であると感じている。ただ、それだけに固執するのではなく、お話いただいたように、米原市の魅力はまだまだ沢山あることから、活動の幅を広げていきたいと思っております。</p> <p>委員：天窓恒例の雪ふみダンスがなくならないように頑張ってください。</p> <p>団体：雪ふみダンスは天窓の武器である。有効に生かしたい。</p> <p>委員：いつも感動している。地域おこし協力隊が中心となり活動が始まったと記憶しているが、色々な取組をしてほしいと広まってきたときに組織を維持するための人材面などで展望はあるか。</p> <p>団体：人材については前回の報告会でも課題であると話したとおり、かなり過酷な実行委員会であることや、誰でもというのではなく、感性に共感いただける方であれば実行委員を増やすのは難しい。昨年の活動の中で見えてきたのは、実行委員会以外で協力団体を増やしていくということ。実行委員会としても次の担い手を求めてはいるが、それに限らず、実行委員会の外側で協力者を増やしていくことが次の展開に繋がると感じている。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	未来へつなぐ古民家活用サポーターズ
4	事業名	柏原地区古民家活用サポート事業
<p>委員：山賊料理など柏原だけに特化されていないか。地域創造支援事業ではなく、協働提案事業であるため。米原市全域に広げて発信されてはどうか。</p> <p>団体：ジビエを使った山賊料理は研究段階のため柏原に特化した。今後は広げていきたい。</p> <p>委員：自己評価シートをみると行政との関わりが少ない。最終的には行政の評価も高くなっているがどういったことか。行政は古民家の活用について広めていかなければならない。積極的な古民家の活用を進めるため、事例など示していただけるとありがたい。</p> <p>委員：柏原も空き家が増加してきたため、都会から移り住む人が古民家を利用してもらえそうな仕掛けが必要である。</p> <p>団体：地元の了解が得られれば、古民家を活用して民宿の展開を進めたい。柏原は空き家が多く、空き家の増えるペースに活用が追い付いていない。市と協働して宿場町体験をして泊ってもらい、地元の特産品を食していただくなどしなければ、地域の良さはわかってもらえない。</p> <p>団体：いろんな分野の方に泊っていただきたい。修学旅行の受入れから進めたい。</p> <p>担当課：一年目ということもあり、行政の関わり方も十分ではなかった。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	はびろネット
5	事業名	東西東西プロジェクト
<p>委員：近江と関ヶ原、柏原と今須は昔から交流があった地域。行政の枠の中で交流が途絶えている状況を見直して再活性化するという素晴らしいアイデアであり、取り組みも良いものであった。これからは言葉や食文化で交流を図っていくということで期待もしている。柏原と今須といった点と点だけでなく、歴史に繋がる面としての広がりを作ってほしい。決算書を見ていると自己資金の比率が低いため、今後はある程度自己資金を確保する方向を検討いただきたい。</p> <p>団体：行政との協働ということで初めての経験から上手くコミュニケーションを取れていなかった。1年間の協働の結果から2年目以降に繋げていきたい。</p> <p>委員：当初の目的でもある若い方々に故郷の再認識と評価をしてもらうための方策はどのように考えているか。</p> <p>団体：はびろネットは東西東西プロジェクト以外にも地域の賛同を集めて、学校支援の地域本部を結成して事務局も行っている。子どもたちと関わり合いのある人も多いため、そういう人たちのサポートをさせてもらおうと思っている。</p> <p>委員：境目検定はすごく面白そうだと思っている。ただ、対象者が小中学生ということなので、ゲーム的要素があればよいだろう。先ほどの意見の中での自己資金を確保するという点においても、境目検定は収入源になりうるのではないか。</p> <p>団体：検定については関ヶ原で関ヶ原検定をされていますが、収入については厳しいと聞いている。今や検定流行りであるため、これを事業に結び付けていくためのアイデアは今のところ考えてはいない。</p> <p>委員：歴史文化となるとどうしても子どもたちの感覚からして参加を促すことはむずかしいだろうが、昔は伊吹山麓の中学校生徒の野球大会などがあった。旅行の要素を取り入れるなど子どもたちに焦点を当てた意識的な働きを是非とも考えてほしい。</p> <p>団体：1年や2年だけでなく、長いスパンを考えないと子どもの関心を高めることはできない。それとともに地域の方々の思いを繋げていくにも長いスパンが必要である。そういうことから、どうしても我々のネックは経済的なところである。市との色々な形でのタイアップをお願いしたい。</p> <p>委員：次年度は言葉を中心に事業を行われるということから、言葉をめぐる仕掛けで小中学生の交流を図っていただきたい。県境を越えた学校の交流となると、行政の支援が必要だろう。また、資金づくりに関しても行政が音頭をとっていかないといけないだろう。もちろん提案や事業主体は団体であるが、支援策を考えていただきたい。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表 6	団体名 事業名	プロジェクトK 地域で子どもを育てる冒険遊び場
<p>委員：自己評価シートに既存の幼稚園や保育園にこの仕組みを組み込むことができないかと記載されている。まさに、そういった要素を組み込むことがこの制度評価に繋がってくる。行政の考えはどのようなものか。</p> <p>担当課：自然の中でのびのびと遊ぶことは、子どもの教育にとって重要なことである。関係部局と連携しながら進めていきたい。</p> <p>委員：子育て支援制度が新たに変わったため今がチャンスである。米原市は子育てしやすいまちと掲げているので、ぜひこの制度の成果として考えていただきたい。</p> <p>委員：子どもたちが遊ぶ機会の場の提供をするということ。是非とも広げていただきたい。地域の子どもたちだけでなく、滋賀県中から体験しにくるような場にしたい。地域の子どもたちだけでなく、滋賀県中から体験しにくるような場にしたい。ただきたいが、大変なことだと思われるので地域の方々だけでなく、広く応援隊を募ってほしい。是非とも川を使った遊びや炭焼き体験なども行っていただき、頑張ってもらいたい。</p> <p>委員：自己評価シートに行政側から自主財源について、行政側からも意見を出し、当提案制度の採択が終了しても継続した活動をいただきたいとあるが、具体的な考えはあるか。</p> <p>担当課：これまでの事業の中で自主財源の確保案などがあると思われるので、そういうところを伸ばして行きたいと思っている。冒険遊び場は必要なことだと考えているので、広報やPRなどの支援していきたい。</p> <p>団体：学校の先生と話をしていると、勉強だけでなく、生活や遊びなど含めて生きる力を付けるための取り組みを試行錯誤されているということであった。まだまだ遊びを重要視されていない部分であり、では何かしようかとしたときにどうしても資金面はハードルとなる。ずっと支援してもらわねばいけません。とりあえずは事業がスムーズに進むまでは行政の支援をお願いしたい。協働提案事業においても3年を目途としているため、4年目以降は自主財源で活動を続けるつもりであるが、それまでの間は支援いただきたい。そうすることで名実ともに子育てしやすいまち米原となっていく。10年、20年後、今の子どもたちが大人になり地域を担っていくためにも、子どものときの教育や経験が重要である。そういう意味でも自分たちの活動が生かせればと思っている。</p> <p>委員：蛭（ヒル）や毛虫など心配するが、上丹生の状況はどうか。</p> <p>団体：今の時期、蛭は特に多い。鹿が運んでくるため鹿対策や、落ち葉拾いなど手入れすることで対応している。</p> <p>委員：協働を実施するきっかけとしていただいたが、この事業は単独部署だけでなく、教育と子育てといったような複数部署で連携しないと継続するのは難しいのではないかと。1対1の取り組みではなく、チームワークで取り組んでほしい。</p> <p>担当課：窓口としては1つの課で担当しているが、関係課と連携して進めていきたい。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 26 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表 7	団体名	My ばらプロジェクト
	事業名	My ばらで米原のまちづくり

委員：このような地道な活動が大切である。是非続けていただきたい。友達の輪にどの程度の広がりがあるかによってこの事業の成果に繋がる。

団体：輪を広げていくための手法の1つとしてバラをテーマに活動してきた。今後も、これまでの参加者からさらに広がりを見せるような取組を進めたい。

委員：モッコウバラの認知度は高まっているのか。

団体：モッコウバラと言う名前や特徴は覚えていただけることができた。ご家庭でも栽培をされるようになってきた。

委員：米原の花として浸透してきたとあっていいのか。

団体：浸透してきたが、米原市は市の花など決まっていない。我々の取組の1つとして、婚姻届を提出され、米原市で暮す方にメッセージカードとバラの苗をプレゼントするという企画を計画したが、市の花が決まってないということから実施できなかった。

委員：少子高齢化で地域力が薄くなっているとよく言われている。バラづくりを通して、最初は好きな人だけでもよいがそれを地域に浸透させていくことで、地域コミュニティの活性化に繋がる。是非とも広がりができるように取り組んでいただきたい。また、決算書を見ていると収入は補助金がほとんどであるため、自己資金力を高めていただきたい。資金的や人的な支援は必要ではあるが、自己資金の確保策はどのように考えているか。

団体：既に自治会から公園に植栽できるのかという問い合わせもあり、そういう所から地域に広めていきたい。これまでの体験事業については参加料をいただいているが、まずは多くの方に参加いただきながらモッコウバラの普及ができればと考えているため、参加しやすい金額で設定していた。植栽用の苗は挿し芽などで増やしていきたいと思っている。

委員：少ない資金で頑張られている。一気にバラのまち米原とするのであれば、年間300万円の予算が必要である。全国にも〇〇の街というような場所があり、例えば花桃の里であれば、全ての家庭に花桃の苗があつたりする。本腰を入れて取り組んでいただかないと地域が限定されてしまう。団体が頑張られているので市も力を入れて一気に広めていただきたい。ふるさと納税制度なども利用できないか。

委員：市の花などは決めないのか。

担当課：合併10周年を迎えるが、市の花を決める予定はない。

担当課：地域活動をされている方々は経験豊富な一部の方がされているというイメージを持たれがちだが、この事業はそうでなく誰でも参加できる、また、既にされていることというのが実はまちづくりに繋がっているという、きっかけや気付きを与えるものであり、子どもからお年寄りまで参加できるものであった。また、実施した事業で挿し芽体験を行ったが、今後はその苗が育った時には植替え体験や定植といった次に繋がるものであり、地元へ愛着を持ってもらえる仕掛けであったのではないかと考えている。

総評

副委員長：

- ・米原市で取り組まれている事業について、いつも楽しみにしている。
- ・今回は3年間実施され最終年度となった団体と新規に事業をされた団体があった。3年間実施した事業においてはある一定の協働の成果やこれからの展開が見えてきた。新規事業に関してはまだお互い動きが見えていない感じはしたが、報告の中から次の展開が見え、発展性が感じられた。
- ・協働提案事業には、事業の大小は関係ない。アイデアレベルに近くとも提案いただくことでこの制度が生かされてくる。ただ、この制度を上手く展開していくためには、どうしても事業というとイベント的なものの実施や地域の活性化と思われるが、米原市を良くしていくためには政策に反映されるような視点も必要である。
また、そういった場合、主担当は1つだとしても、関係する部署は沢山あると思われる。他市のプレゼンでは関係する複数の部署も同席している場合もある。そういう繋がりの中で行政の協働に対する関わり方、団体のパワーアップに繋がっていくと感じる。

委員長：

- ・米原市の協働の取り組みは、全国に誇れるような先進的な事例になる。
- ・協働の推進において、3つの視点が重要である。
- ・まずは情報。民間がもつ情報、生活から発する情報といった、民が持つ情報を発信して共有し、高めていくことが米原市の発展に繋がっていく。
- ・2つめは共感。賛同や参加することで共感の輪を広げることが更なる発展に繋がる。
- ・成長と協働。協働の概念はなくなることはないだろう。ただ、段階を踏んで協働の形を変えていかなければならない。協働の在り方、米原らしさをつくりあげていく上での成長において、どういう協働の団体が必要なのかということを考えて作り上げていくことが大切である。

事務局：

- ・音響が悪く失礼した。次回は検討する。
- ・総合計画に関連してアンケートを実施する。ワークショップも7月20日、8月2日に開催するので参加していただきたい。

ルッチまちづくりネット：

- ・2年目もカフェ方式で進めた。通りすがりにでも何かやっているということが伝わればと思っている。
- ・総合計画のワークショップも皆さんが関わりやすい雰囲気で開催する。総合計画というと、偉い人だけが作り上げるというイメージだが、皆さんが関わりやすいような雰囲気をつくる。子どもたちや色んな方の意見を吸い上げられるよう協力させていただく。